

# 宮城県仙台市立秋保中学校

(様式4-2：令和2年度 モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度  
実施結果報告書)

## 実施結果報告書

1. 学習名称： 秋保地区の交通を考える					
2. テーマ： 秋保地区の交通を考えるプロジェクト					
3. 実施教科： 総合的な学習の時間 社会科					
4. 関連単元： 総合「起業体験事業」 社会「これからの地域社会と日本」					
5. 実施単元数： 1 リーダー研修会6時間（3日間） 2 全校授業2時間（1日） 3 新交通を体験する課題3時間（2日の体験，アンケート）					
6. 学年	全学年	7. クラス数	5クラス	8. 生徒数	64名
9. 実施内容					
1 リーダー研修会 <a href="https://sites.google.com/view/akiujhs/">https://sites.google.com/view/akiujhs/</a> 全校授業 ねらい 学年のリーダーそして将来の地域の担い手としての自覚を高める。 日時 8/4（火）6（木）7（金） 13:00～15:00 内容 話し合い活動「未来デザイン研究所 ～10年後の秋保～」					
2 全校授業 <a href="https://youtu.be/MjeM8ls83D0">https://youtu.be/MjeM8ls83D0</a> 日時 令和2年9月10日（木） 5, 6校時 （13:40～15:30） 場所 秋保中学校体育館 内容 プレゼンテーション 「未来デザイン研究所～10年後の秋保～」 講話① 「秋保地区の高齢者支援事業について」～現状の課題と改善策～ 秋保地域包括支援センター機能強化専任職員 添田 拓三 氏 講話② 「秋保地区交通を考える会の取組」～現状の課題と今後の発展性～ 秋保地区の交通を考える会事務局長 佐藤 祐二 氏 講話③ 「秋保地区 MaaS 構想」 JR東日本MaaS事業部次長 高木 茂 氏 パネルディスカッション 「秋保地区の交通を考える」					
3 新交通を体験する JR東日本「MaaS」体験 秋保地区の交通を考える会「ぐるりんあきう」体験					

## 10. 学習のながれ

### (1) 指導のねらい

本校のある秋保地区は、30年前の仙台市との合併当時は人口5100人を超えていたが、現在は、4100人まで減少し、65歳以上の高齢化率が35%を超えている。本校の生徒数も250人を超えていたものが現在は64人まで減っている。また、生徒が利用する仙台市営バスの秋保二口路線は年間7000万円以上の赤字である。このような中、市営バスの路線見直しが進められている状況にあり、交通事情の確保と改善を図るため「秋保地区の交通を考える会」が活動をしている。中学生にも地域が抱える問題点について考える機会を設け、新交通システムの提案や高齢者の生活支援について興味を持たせたい。中学生が地域住民の一員として秋保地区の交通について考えることで、地方再生コンパクトシティ構想などに関心を持ち、将来の担い手としての自覚と意欲を育みたい。

### (2) 具体的な指導内容

- ①秋保地区の交通を考える会と連携しながら、乗り合いタクシーの実証実験に向けて、システムの構築について中学生のアイデアを提案したい。
- ②高齢者が抱える生活上の不安について考える場を設定し、通院や買い物を手助けするタブレットを使ったソフト開発について提案ができるようにしたい。

### (3) 期待できる生徒の成長

- ①秋保地区の交通を考える会と連携し、乗り合いタクシー構想へのアイデア提供などを通して、交通事情を考える機会や実現に向けての意識改革へとつなげることができる。
- ②現在中学生が地域ボランティアとして小学校の運動会や学芸会、市役所主催の「まつりだ秋保」に協力している。さらに市役所や地域の民生委員等と連携することにより、ICTを使った高齢者の生活支援に活動を広げられる可能性がある。

### (4) 期待できる地域への貢献

秋保地区の交通を考える会が中心となり、地域新交通システムの企画、実証実験、運営へとつなげられれば運行の実現が可能となる。しかし、それを継続的に運用していくためにはタブレット端末などを使った検索や予約などの仲介業務等のソフト開発をどのようにするかが鍵となる。

### (5) 指導計画

・対象学年 全学年 64名

・時期

- ①8月4日(火) 6日(木) 7日(金) リーダー研修会 (別紙1参照)
- ②9月10日(木) 5, 6校時 全校授業 (別紙2参照)
- ③1月末 新交通体験とアンケート調査 (別紙3参照)

・教科との関連性

本校はユネスコスクールとしてカリキュラムマネジメントを取り入れ、SDGsに取り組んでいる。【目標11 住み続けられるまちづくり】を目指し、各教科と領域と関連させながら取り組む。主に関連するのは、総合の「起業体験事業」と社会科の「これからの地域社会と日本」である。

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。

## 第2回リーダー研修会（改訂版）

2020.7.22 橘川

- 1 目的 (1) リーダーとしてのあり方を学ぶ  
(2) 学年のリーダーを集団として段階的な研修を通して育てる  
(3) 秋保の地域活性化のために必要な資質や技能を身に付けさせる
- 2 日時 令和2年4日（火） 6日（木） 7日（金）合計3日間 2階視聴覚室+更衣室を使用  
午後1～2時間程度 3時バスで下校  
**※家庭訪問・三者面談期間のため給食がない。弁当は給食室で保管？**
- 3 参加生徒 1, 2年生合わせて15～20名程度 3年生は希望参加  
現生徒会執行部, 学級委員, 今後学年や学校のリーダーとしての活躍が囑望される者  
1グループ10名+教員1名（伊藤結T, 穂上T） 2グループ構成  
**※新型コロナウイルス感染症のため通常の話し合い活動はさせられないため、第1回リーダー研修会で示したようなやり方で話し合いを行う。**
- 4 内容 「未来デザイン研究所～10年後の秋保～」(仮)  
・現在, 秋保地区で生活していく上で困っていることや不便なことを全校生徒にアンケート調査を実施し, その上で, どうしたら改善できるか, より良くなるか考える。  
・秋中生が子育て世代になった頃の「10年後の未来の秋保」について考える。  
・生徒が考えるアイデアは以下の4つの前提条件のうち必ず1つを含めて考えることとする。  
(アンケートの結果を見ないと何とも言えませんが, 推測です)  
①「インターネット」  
②「人材と産業」  
③「高齢化」  
④「観光地」  
・生徒が考えたアイデアは, ビデオで撮影し, それを発表会とする。もしくは最終日に発表会の時間を設ける。 **※文化発表会で動画配信？**  
・昨年度と同様に**※英語版原稿を作成し, 発信**する。
- 5 実施計画  
7月下旬 参加生徒決定, 名簿作成  
参加生徒の保護者に文書で告知, 参加同意書を配付・回収  
実施内容決定  
7月31日（金）ファシリテーターカンファレンス  
8月4日（火）～ リーダー研修会 オリエンテーション（趣旨説明）, 講話  
8月6日（木）話し合い活動①  
8月7日（金）話し合い活動②, 意見発表（動画撮影）

実施計画簡略化も可能。その際は、生徒のアイデアを教員が代弁してまとめる。

令和2年7月27日

1, 2年生の保護者の皆様

仙台市立秋保中学校  
校長 千葉 慎

## 第2回リーダー研修会について（お知らせ）

梅雨明けが待たれる今日この頃、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動にご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、これからの秋保中学校を率いていくリーダーの資質や技能の向上を目指す研修会を、下記のとおり実施いたします。

つきましては、参加を希望する場合は下記の参加申込書に必要事項を記入の上、**7月31日(金)まで各学級担任**にお申し込みください。

なお、この研修会は任意参加です。

### 記

- 1 目的：(1) 学年のリーダーとしての自覚を促す  
(2) 段階的な研修をとおして学年のリーダーを集団として育てる  
(3) リーダーに必要な資質や技能を身に付けさせる
- 2 実施日時：8月 4日(火) 6日(木) 7日(金) 3日間 13:00~15:00  
仙台市立秋保中学校 視聴覚室, PC室  
参加生徒は3日間連続参加を条件としますが、夏キャリの日程と同じであればそちらを優先し、1日のみの参加も可とします。
- 3 実施内容：  
(1) 講話「リーダーに求められる資質とは」 講師 (未定)  
(2) 話し合い活動の課題 「未来デザイン研究所～10年後の秋保～」  
※新型コロナウイルス感染症に配慮して、グループを作るような近い距離での話し合いは行わず、各個人でカードに自分の意見を書き、教員がそれを集約するという形で話し合いを行います。
- 4 参加定員：1, 2学年合せて20名程度 ※各学年から推薦があった生徒 **(3年生は希望参加)**
- 5 持ち物等：ジャージ, タオル, 筆記用具, 昼食, 飲み物

----- 切り取り線 -----

リーダー研修会参加申込書

( ) 年 ( ) 組 生徒氏名：( )  
保護者氏名：( ) 印)

リーダー研修会に

参加を希望します

## 「秋保地区の交通を考える」全校授業について

## 1 指導のねらい

本校のある秋保地区は、30年前の仙台市との合併当時は人口5100人を超えていたが、現在は、4100人まで減少し、65歳以上の高齢化率が35%を超えている。本校の生徒数も合併当時250人を超えていたものが現在は64人まで減っている。また、生徒が利用する仙台市営バスの秋保二口路線は年間7000万円以上の赤字である。このような中、市営バスの路線見直しが進められている状況にあり、交通事情の確保と改善を図るため「秋保地区の交通を考える会」が活動をしている。中学生にも地域が抱える問題点について考える機会を設け、新交通システムの提案や高齢者の生活支援について興味を持たせたい。中学生が地域住民の一員として秋保地区の交通について考えることで、地方再生コンパクトシティ構想などに関心を持ち、将来の担い手としての自覚と意欲を育みたい。

今回の全校授業を通して「秋保の交通を考える会」「JR東日本MaaS事業」「秋保地域包括支援センター高齢者介護事業」について理解を深めることで、地域が抱える問題点について考え、新交通システムの提案や高齢者の生活支援について興味を持たせる。さらに、10年後の秋保地域の担い手としての自覚と意欲を育む。

2 日時 令和2年9月10日（木） 5、6校時（13:40～15:30）

3 場所 秋保中学校体育館（新型コロナウイルス対策を徹底し、ソーシャル・ディスタンスに配慮する。）

## 4 全校授業の流れ

12:40 期末考査2日目終了。給食後に帰りの会をして、椅子を持って体育館に移動。

13:20 校長室に講師到着。

12:30 体育館に移動

13:40 開会の挨拶

13:45 生徒によるプレゼンテーション 「未来デザイン研究所～10年後の秋保～」

13:55 講話① 「秋保地区の高齢者支援事業について」～現状の課題と改善策～

秋保地域包括支援センター機能強化専任職員 添田 拓三 氏

14:15 講話② 「秋保地区交通を考える会の取組」～現状の課題と今後の発展性～

秋保地区の交通を考える会事務局長 佐藤 祐二 氏

14:35 講話③ 「秋保地区MaaS構想」 JR東日本MaaS事業部次長 高木 茂 氏

14:55 休憩（机の配置を移動する）

15:05 パネルディスカッション

15:30 終了

保護者には授業の様子は右記QRコードで動画限定配信する。



## 5 SDGsとの関連性

本校はユネスコスクールとしてカリキュラムマネジメントを取り入れ、SDGsに取り組んでいる。【目標11 住み続けられるまちづくり】を目指し、各教科と領域と関連させながら取り組む。この授業において主に関連するのは、総合の「起業体験事業」と社会科の「これからの地域社会と日本」である。

## 6 その他

- ・ 参観者（交通を考える会、秋保総合支所、市教委、教育関係者、地域の方々、報道機関）は体育館の入り口から直接入場し、直接帰る。
- ・ 体育館入り口に受付名簿と消毒用アルコールを置き、マスク装着を要請する。
- ・ 取材依頼のあった場合は、事前に代表生徒を選出し、保護者の了解をもらう。